

●基本理念

「良い医療を、効率的に、  
地域住民とともに」  
私達は地域住民の健康増進のため、他の医療機関や保健福祉分野と力を併せ、地域中核病院として、当地域の医療を担うと共に、さらに高度な医療に対応できるように努力します。

SCRUM No.52

すくらむ

発行：赤穂市民病院 〒678-0232 赤穂市中広1090番地 TEL0791-43-3222 (代) FAX0791-43-0351  
編集：赤穂市民病院広報委員会

チーム力！輪！和！団結！

副院長 小野成樹

平成22年の夏はサッカーワールド杯が始まった感じがある。日本代表の岡田ジャパンは長い予選の戦いを勝ち抜いて南アフリカでの本戦に進んだ。しかし、本戦直前の国際試合の成績が惨憺たるものであったこともあり、評判は悪く、不安なまま本戦開始となったのは皆さんご存知のとおりである。しかし、選手たちは自主的に選手だけのミーティングを行い、白熱した議論の末、一致団結し、戦う姿勢ができたという。その結果チームワークを武器に初戦をものにした。第二戦では準優勝した強豪オランダには1対0で負けたものの、第三戦デンマーク戦にも勝利し、決勝トーナメント進出を果たした。決勝トーナメント第一戦はPK戦で惜しくも敗れたが、PK戦でゴールをはずした選手を皆でかばったのは有名な話になった。チームの団結は選手だけでなくス

タッフとの一体感も言われている。高地で走り続ける体力を保持するため貯蔵鉄の増加をサプリメントで補給させたりした杉田医師たちによる健康管理も大きなポイントであったという。この岡田ジャパンのチームの団結力は日本全土を興奮のうず巻きに巻き込んだ。

さて医療の現場もチーム力が要求されている。一人では医療は行うことができない。多くの診療科の協力は不可欠であり、医師、看護師をはじめ多職種参加が求められる。チーム医療が医療の核になっている。今年の診療報酬改定でもこうしたチーム医療が評価されるようになった。当院にはNST（栄養サポートチーム）、摂食嚥下チーム、ICT（院内感染制御チーム）、褥瘡対策チーム、糖尿病療養チーム、PEGチーム、母乳育児支援委員会、緩和ケアチーム、プレストケア



NSTミーティング

チームがチームとして活動している。NSTは特に早くから活動しており、教育施設にもなり、横山正先生を中心に精神的に活動をしている。今回栄養サポートチーム加算ができ、近々算定要件をクリアできそうで喜ばしいことである。昨年の新型インフルエンザ騒動ではICTが大活躍をした。林先生と認定看護師の今川看護師を中心に精力的に活動している。緩和ケアチームも横山弥栄先生を中心にがん患者の治療に寄与している。このたびは武内看護師が緩和ケア認定看護師の研修に入り、八杉認定看護師が退職後不在となった穴を埋めることができるようになった。そのほか和田先生を中心とした褥

瘡対策チームも褥瘡加算がつく前から入院患者の管理に励んでもらっている。また今回呼吸ケアチーム加算も算定できるようになったが、当院にはまだ呼吸ケアチームは活動できていない。ただ呼吸療法認定士の資格を持つ看護師も3名おり、今後の大きな課題である。

かくして院内のチーム医療は他院にさきがけて活動をはじめ実績を上げてきたが、最近はこのチーム連携が院外にもひろがってきた。脳卒中連携パスなども稼動しているが、今年の診療報酬改定でがん治療の連携パスの算定が認められた。これは地域がん診療連携拠点病院の責務ともいえるべきもので、地域連携診療計画を作成し、連携医療機関と共



ICT病院祭での活動

